



森のピアニスト
重松壮一郎



music & graphic design studio

みずのえ

生きとし生けるものすべてと共鳴し、
音に命を吹き込む「森のピアニスト・重松壮一郎」。
その音は、風のように流れ、森のように包み込む。

「人間だけでなく、スズメにも、タンポポにも、モミの木にも聴いてもらいたい...」
“生きとし生けるものすべてに向けた音”をテーマにしたオリジナル曲と即興演奏でライブ活動を行う、自然派ピアニスト・重松壮一郎。日本全国を旅しながら、年間100回以上のライブを行い、ジャンルや世代を超えて、多くの
人々の心を打ち続けている。



コンサートホールだけでなく、田舎街の小さなカフェから、美術館、寺院や教会、学校、病院や介護施設、個人宅でのホームコンサートまで、ピアノさえあればどんなに小さな会場、少人数でも音を届けにゆく。ピアノを外に運び出しての野外コンサートは、彼の音を楽しむ理想の環境。音と自然が1つに調和した世界に、聴衆は身も心も委ね、解放する。2004年・2006年にはアメリカ(NY、アイオワ)、2008年にはオーストラリアでもツアーを行っている。

聴衆が子どもであろうと、高齢者であろうと、オリジナル曲と即興演奏のみのライブにこだわるのも彼の特徴。ふだんは心を動かすことの少ない認知症の患者さんが、静かに涙を流した...。そんなエピソードも彼ならではのであろう。
小さな命ひとつひとつへ向けた慈しみの音は、すべての命をつなぐ「共生の音楽」。現代に生きる人々の心に深く響き、多くの共感を呼び続けている。

待望のNEWアルバム「tsumugi」が誕生!

重松壮一郎の待望の新作は、東日本大震災が起きた2011年が暮れゆく11月に録音された。いま感じているすべてが詰め込まれた、71分51秒の大作だ。

震災後、いつも以上に、一人一人の心に寄り添いたいと願いながら、全国で演奏活動を続けた重松壮一郎。この新作では、ライブでお馴染みの曲に加え、震災後の活動のなかから生まれた新曲や、原発事故による放射能汚染をテーマにした曲も含まれている。決して悲観することなく、私たちが自然と寄り添いながら、生を紡ぎ、未来を創造してゆく力強さを表現している。

全曲オリジナルで構成された、新しいピアノ音楽。ファンのみならず、震災後の世界に生きるすべての人に、ぜひ聴いてもらいたいアルバムである。



「tsumugi」 重松壮一郎 MALT005 ¥2,500
ライブ会場、webサイト、全国の取扱店にて販売



重松壮一郎 プロフィール

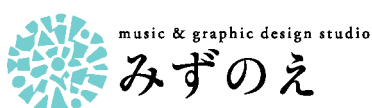
<http://www.livingthings.org>

ピアニスト、作曲家。1973年、大阪生まれ、横浜育ち。早稲田大学社会科学部卒。

4歳からピアノを始める。クラシック、ロック、ジャズなどを経て、独自のスタイルを確立。その音は川の流れるように変化し続けている。音楽だけでなく、あらゆるジャンルの表現者とボーダレスなコラボレーションも展開。アートイベント、平和コンサート、野外音楽祭、子ども向けワークショップなど多くのイベントを全国で主催。人間だけでなく、すべての命に向けた音楽を創造すること、音を媒介に自然と交感すること、環境問題における音楽の役割とは?などのテーマに取り組んでいる。

2005年、ドラマ法王14世の来日記念ドキュメンタリーの音楽を担当。同年7月、NHK熊本のテレビ番組「金曜ライブ」にて、生放送で即興演奏など行う。オーストラリアのシンガー・ソングライター/環境活動家アンニャ・ライトのレコーディングに参加。2008年10月、四国放送テレビ「即興にこだわるピアニスト～重松壮一郎」が放送。2009年8月の平和記念日、広島にて被爆ピアノのコンサートを行う。2011年は各地にてチャリティ・コンサートを企画、チャリティ・アルバムにも参加。

お問い合わせ



tel: 090-6518-6963
mail: soso@livingthings.org

演奏依頼募集中!

CD発売記念ライブを全国各地で開催。その他、子どもから大人向けまで、様々なプログラムの演奏を企画しています。お気軽にお問い合わせ下さい。



1 ニューヨーク公演



2 NHK出演(熊本)



3 ガラクタに咲いた花(東京)



4 いるよいるよ(大阪)



5 joy!~わたしの楽しみ(長崎)



6 被爆ピアノコンサート(広島)



7 ホスピスでの演奏(熊本)



8 LEDフェスティバル(徳島)



9 つるおかユースホステル(山形)



10 東林院(徳島)



11 八幡高原(広島)



12 ギャラリー夢雲(奈良)



13 3.10折りのキャンドルナイト(東京)

2004年

1 12月、初のアメリカ・ツアー。ニューヨーク、アイオワ州にて、9公演行う。

2005年

2 7月、NHK熊本のテレビ番組「金曜ライブ」にて、生放送で即興演奏など行う。
この年より、年間100回以上のライブを国内外にて行うようになる(以後、継続中)。

2006年

4月、2度目のアメリカ・ツアー。ニューヨークにて、2公演行う。

2007年

3 4月、麿品打楽器奏者・山口とも氏との「ガラクタに咲いた花」を主催・企画制作(以後、継続中)
4 10月、イラストレーター・こじまさとみ氏との「いるよいるよ」展開催。同名のCD付き絵本を発売。

2008年

10月、初のオーストラリア・ツアー。メルボルン近郊にて3公演行う。

2009年

5 4月、フラワーアート、現代美術とのコラボレーション、「joy!~わたしの楽しみ」を企画。
6 8月、平和記念日に広島にて、被爆ピアノのコンサートを行う。

2010年

7 年間120回近いライブを継続。大ホールから、病院・福祉施設、個人宅まで幅広く演奏。
8 4月、徳島LEDファスティバル2010に出演。「光を音に紡ぐ」をテーマに野外演奏。
9 2006年より東北でも年2回のツアーを行う。
10 6月、徳島県鳴門市のお寺の境内にて野外コンサートを行う。
11 8月、広島県の八幡高原にて野外コンサートを行う。

2011年

12 7月、奈良県のギャラリー夢雲にて野外コンサートを行う。

2012年

13 3月、震災から1年。慰霊のイベント「3.10折りのキャンドルナイト・コンサート」を主催。

「今この時代に必要な音、大切な時を奏でる、次世代への切符のように思えます。ふしぎとピアノ以外に……聞こえてくる心のね、樹のね、鳥のね、風のね、雨のね、動物のね、あらゆる『ね』を取り込み、風のように自然に舞うピアノ。少年の遊び心豊かな一面もあり、妖精の如く森を跳ね回るピアニスト。すてきです。」

山口とも（廃品打楽器奏者）

祖父、山口保治は「かわいい魚屋さん」「ないしょないしょ」など数々の童謡を創った作曲家。父、山口浩一〔新日本フィルハーモニー / ティンパニー名誉首席奏者〕の長男として東京に生まれる。つのだ☆ひろのアシスタントとして音楽の世界に入る。1980年「つのだ☆ひろとJAP,SGAP,S」でデビュー。解散後、フリーのパーカッションistとして中山美穂・今井美樹・平井堅・石井竜也・サーカスなど、数々のアーティストのツアーやレコーディングに参加。03年4月から06年3月までNHK教育テレビ「ドレミノテレビ」に「ともとも」の愛称でレギュラー出演。「音楽=音を楽しむこと」をモットーに近年は子供から大人まで楽しめる音楽を目指し、オリジナル廃品楽器を使ったパフォーマンス活動をして注目を浴びている。ガラクタに命を吹き込む打楽器奏者。



「時に、鐘がなっているみたいに、明るい光に包まれる。
どんなに走っても、ひとつひとつの音がしっかりと足跡を刻んでいっている。
クラシックみたいに聴こえる時もある、
でもそれもsoso*の音だって納得のいく響きなんだよね。」 *「soso」…重松社一郎の愛称



岡林立哉（馬頭琴・ホーミー奏者）

名古屋出身、高知在住。日本におけるホーミー・馬頭琴演奏の第一人者。1998年、初めてモンゴルを訪れる。以後計2年以上の滞在期間中の遊牧民との生活、歌を求めての奥地への旅、2002年からの2年半、30カ国に及ぶ欧州、南、北米での演奏しながらの旅で培った、繊細かつ力強い馬頭琴、ホーミーの音は、国家、民族を超えて、幅広い支持を得ている。2004年帰国後は遊牧民から学んだ多くの歌と、モンゴル話とともに送る贅沢な「生音コンサート」を展開中。ホーミーの宇宙的響き、馬頭琴の素朴さ、あたたかさ、「音」そのものの持つ力を表現したステージは全国各地で好評を博している。

「NEWアルバム『tsumugi』は、居ながらにして森の中にいるようなそんな気持ちにさせてくれる。
そこで聞こえてくるのは、風や小川の爽やかな音色、時には滝の音も。
そして生きものたちの息吹。
これこそ自然へのオマージュ、失ってはいけない大切なものへの愛の調べ。
重松さんが、自然と共に創り上げてきた究極の癒しの音楽。」

吉岡淳（カフェスロー代表）

ナマケモノ倶楽部世話人。大妻女子短期大学、関東学院、NHKカルチャースクール講師。日本ユネスコ協会連盟元事務局長。30年間にわたるユネスコ運動をへて、2001年にナマケモノ倶楽部の運動拠点としてカフェスローをオープン。以後、「スローカフェ」の普及と人材育成にとりくむ。現在、スローカフェは、大阪、福岡、神戸、長野に展開。全国からのカフェ視察や起業相談、取材が絶えない。大学やカルチャーセンターでは、「環境と身体」「平和教育」「人権論」「NPO論」「ユネスコ世界遺産」等の講座を担当。著書に「カフェがつなぐ地域と世界」（自然食通信社）。

